

令和6年度 環境学習アドバイザーを活用した環境教育の取組例

◇環境学習アドバイザー：土井 浩 氏

◇学校名：和歌山県立和歌山東高等学校

◇学年：3年

◇教科：家庭科

◇テーマ：生活環境

◇学習のねらい

- ・ 外来種と在来種の分類から自然環境の現状把握をさせる。
- ・ 自然循環について理解させる。
- ・ 環境を優先にした生活の実践を考えさせる。

◇学習の流れ

★：環境学習アドバイザー派遣を活用した授業

校時	学習の主な活動	指導のポイント
1★	水の生き物の調査	・ 学校付近の水の生き物の調査をする。 ・ 外来種と在来種の分類から自然環境の現状把握をさせる。
2★	植物の採取と調査	・ 学校付近の植物の調査をする。 ・ 外来種と在来種の分類から自然環境の現状把握をさせる。
3	まとめ	・ 自然循環について理解させる。 ・ 環境を優先にした生活の実践を考えさせる。

◇実施時期：5月

◇成果

- ・ 在来種のメダカ、えびを採取することができた。カダヤシ等の外来種の生息から、生態系に与える影響を学習することができた。今後は、「小手穂環境マップ」を作成して、環境に負荷の少ない生活実践の大切さを伝えていければと考えている。
- ・ 各自4種類の草花を採取し、スケッチした。スケッチすることで、細かい部分まで観察することができた。本校周辺は、在来種と外来種の割合が同じくらいであった。外来種が増殖する原因や自然環境に与える影響について学んだ。普段何気なく目にしている草が、私たちの健康を支えている自然環境のひとつであることに気が付いた。

◇実施の様子（写真）

